

印刷技術の発展に合わせて、実用性と美しさを兼ね備えながら進化を続けてきた活字。情報伝達の道具としてだけでなく、デザインの中心を担う素材としても重要な役割をはたしています。現在では、紙からパソコンやスマホの画面へと使用が広がり、「フォント」という呼び名が一般的に使われるようになりました。このシリーズ「活字のかたち鑑賞会」では文字のかたちに焦点を当て、本への新たなアプローチを試みます。

活字のかたち鑑賞会 その3

鳥海修さんの 書体のつくりかた

2019年 **10月10日** (木) 19時～21時 (18時30分開場)

千代田区立日比谷図書文化館 地下1階 日比谷コンベンションホール (大ホール)

定員 200名 (事前申込順。定員に達し次第締切) 参加費 1000円



今回は書体設計士である鳥海修氏をお招きし、本文書体の作り方・考え方という視点から、本と文字のおおまかな歴史、日本語の構造と書体とその作り方、最近のトレンドとなっている書体の基本的な知識をお話いただきます。

さらに、その手順やポイントの解説とともに、鳥海氏が実際にひらがな一文字をレタリングする工程をご覧ください。

とりのうみ おさむ
講師 **鳥海 修** 書体設計士

1955年生まれ。有限会社字游工房の書体設計士。同社の游書体ライブラリー、株式会社SCREENホールディングスのヒラギノシリーズ、こぶりなゴシックなどベーシック書体を中心に現在まで100書体以上の開発に携わる。字游工房として2002年に第一回佐藤敬之輔賞、ヒラギノシリーズで2005年グッドデザイン賞、2008東京TDCタイプデザイン賞を受賞。著書に『文字を作る仕事』（日本エッセイスト・クラブ賞受賞）、『本をつくる』（共著）がある。武蔵野美術大学視覚デザイン学科非常勤講師、京都精華大学客員教授。

お申込み

①ホームページの申込みフォーム

②お電話 (03-3502-3340)

③ご来館 (1階受付)

いずれかにて参加希望の講座名、お名前 (よみがな)、お電話番号をご連絡ください。

小学生以下のお子様に参加される場合、保護者の同伴が必要です (同伴者の方にも参加費が必要です)

主催 千代田区立 日比谷図書文化館

千代田区日比谷公園1-4 (日比谷公園内)

<https://www.library.chiyoda.tokyo.jp/hibiya/>

●都営三田線「内幸町駅」

A7出口/徒歩3分

東京メトロ●丸ノ内線●日比谷線「霞ヶ関駅」

B2出口/徒歩3分

東京メトロ●千代田線「霞ヶ関駅」

C4出口/徒歩3分

JR「新橋駅」

日比谷口 (SL広場) /徒歩10分

